3. その他特記事項

1. 入浴禁忌
2. 入浴の利点と欠点
3. 救急時の看護処置

についてとりあげ、入浴が及ぼす患者への影響、介助者への影響を調査した。

その他入浴介助を実際に行う場合の適当な人的条件を判定するため障害度6～8の場合の実験を試みた。結果患者1人に対する介助者は1.5人で1回の入浴で介助する患者は4人が限度であるように思える。介助は患者の状態によっても異なるが、手のかかり方は複雑にはなっても簡単になるということは考えられないのでこれを下廻らない程度の介助者人数が必要と思われる。

尚患者への影響として考えられるものには、不整脈、速脈の出現と血圧上昇と血圧下降の著しい者があった。

介助者への影響としては疲労感の他に、入浴介助開始時と終了直後に測定した体重が、所要時間1時間30分で平均400 g～450 g減少していた。

以上は、現有する設備の中で研究してまとめたものであるが、設備構造や環境が改善されることにより介助が容易になりもっとよりよい入浴看護が出来るように思える。

56 エレベートバス導入後の考察
(油圧式ストレッチャーの導入を試みて)

国立新潟療養所　12病棟

五十嵐　節　子　　福　島　ウ　メ
篠　田　睦　子　　須　田　紀美子
小　山　ミナ子　　星　　千恵子
近　藤　由美子　　仲　丸　ミ　ス
山　田　恵　子　　上　野　ミツエ
伊　原　君　代

〔はじめに〕

当病棟では患児の成長に伴い介助者の腰痛対策は必須で、50年11月よりエレベートバスにより入浴方法の改善をはかって来た。しかしストレッチャーが高く介助しにくい。等の問題がありそ

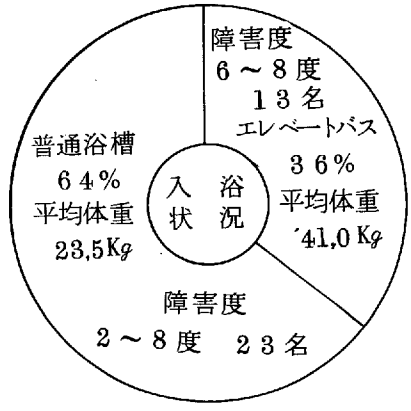
の後油圧式ストレッチャーを導入し、８カ月を経たので二年間のまとめとして報告する。

1. エレベートバス使用者の入浴状況

使用当初障害度６～８度８名の使用であったが、52年12月より13名使用している。

入　浴　状　況

52年12月現在



2. エレベートバス使用後の結果

〔長所〕

1）体重の重い患者へ安全かつ安楽な方法で介助できた。

2）抱きかかえ労作が少なくなり腰痛、疲労感が軽減した。

3）作業能率が向上した。

〔欠点〕

1）肥満、変形の為全身浴槽につかれない。

2）ストレッチャーが高い。

3）掃除に手数がかかる。

4）入浴気分にやや欠ける。

3. 油圧式ストレッチャーの導入（52年５月）

〔油圧式ストレッチャーの特徴〕

車体中央の支柱に取付けられたここの足踏ペダルで最高80㎝～最低55㎝迄高さを調節でき上昇、下降とも数秒で操作できる。

〔使用方法〕

車椅子とストレッチャーを平行に接近させ介助者の高さに調節する。患者は車椅子上で脱衣しストレッチャーに移動する。

運搬時できるだけ動揺をさけ患者に不安感を与えないよう転落防止に心がける。

〔結　　果〕

〔長所〕

各自の車椅子坐席の高さに調節でき、洗い台としても介助者の身長に合わせ使用できる。この結果患者の水平移動がほぼ可能となり、腰痛、疲労感が軽減された。

〔欠点〕

普通のものより重量がある。価格が高い。

〔結　　果〕

患者の重症化、高令化に伴い、ますます入浴介助は困難となる一方陰部湿疹等の増加を考える時、できるだけ多くの入浴回数を、と望む中でエレベートバス及び油圧式ストレッチャーは大きな収穫であった。表に示すように当病棟（Ａ病棟）よりの腰痛症は少なくなった。患者への影響

は機械力による問題も残されるが、「全員が気がねなく安心して介助してもらえる」とアンケートで示された。

以上の点からも考え合わせエレベートバス、油圧式ストレッチャーは、ＰＭＤ病棟に欠く事のできない入浴装置であり、より効果的に使いこなす訓練が必要かと思う。更に、

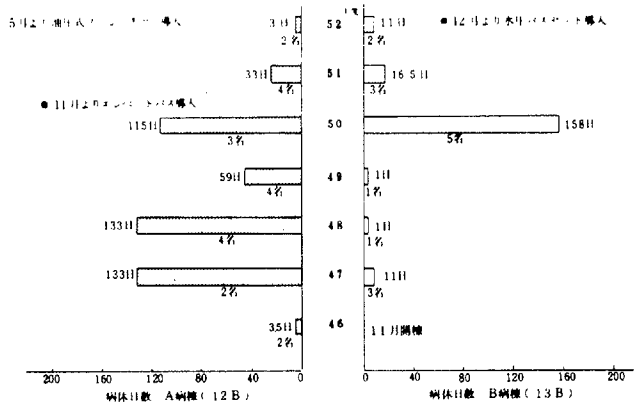
1）浴室の拡張
2）給湯設備
3）脱衣室の工夫
4）業務内容
5）機械に対する知識
6）職員の健康管理、等検討を要する。

〔おわりに〕

機械力の導入による心のゆとりを口かず少ない患児（者）に今後も日常生活をとおし、援助してゆきたい。

ＤＭＰ二ケ病棟より発生した腰痛関係による休養者と病休日数を示す。（エレベートバス導入後減少している。）

年度別腰痛関係病休者（病気休暇による取扱い）



57 入浴システムについて

国立徳島療養所

吉尾　千代子　　東山　渓子
青木　喜美子　　伊賀　二美恵
○高藤　信江　　後藤田　真弓
福田　シゲル　　松原　秋子
深見　恵子　　久次米　勝子
伊藤　秀子

進行性筋ジストロフィー症患者の、入浴に関する看護を共同研究の一端として、私たちは「入浴システム」について検討してきた。全国の国療筋ジ施設に入院中の患者について、入浴の方法

検索用テキスト　OCR（光学的文字認識）ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔はじめに〕

当病棟では患児の成長に伴い介助者の腰痛対策は必須で、50 年 11 月よりエレベートバスにより入浴方法の改善をはかって来た。しかしストレッチャーが高く介助しにくい。等の問題がありその後油圧式ストレッチャーを導入し、8 カ月を経たので二年間のまとめとして報告する。